

科目名	建築CAD設計製図演習 V							
科目名(英)	Computer Aided Architectural Design V							
単位数	4単位		時間数	60時間	担当者	田川 裕也・河嶋 正樹		
実施年度	2022年度		実施時期	後期	担当者実務経験	建築施工現場事務所に 施工図作成業務に従事		
対象学科・学年	建築学科(夜間) 2年							
授業概要	今まで学んできた知識・技術を使い、2年間の集大成として作品を制作する。 実務での、施主等へのプレゼンテーションができるよう発表を行う。							
授業形式	講義:		演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標		
		○				対象敷地を定め、周囲環境、コンテキスト等を調査しまとめることができる。		
		○				建築計画を立案し、具体的な設計内容を、ダイアグラムや図面を作成しまとめることができる。		
		○				客観的・多角的な目線で計画内容を再検討し、ブラッシュアップすることができる。		
		○				計画案について魅力的に発表することができる。		
		○				他者の作品に対し、的確にアドバイスすることができる。		
テキスト・教材 参考図書	オリジナルプリント							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示		
	1・2	ガイダンス・テーマ設定<河嶋>						
	3・4	エスキス:テーマ設定(調査資料、作業資料、敷地図面等による確認)				予定作業内容が終了していない場合は、次回事業 が出来るところまで進めておくこと。		
	5・6	エスキス:コンセプト設定(ダイアグラム、図面、スタディ模型等による確認)				予定作業内容が終了していない場合は、次回事業 が出来るところまで進めておくこと。		
	7・8	エスキス:計画案の概要設定(ダイアグラム、図面、スタディ模型等による確認)				予定作業内容が終了していない場合は、次回事業 が出来るところまで進めておくこと。		
	9・10	1次プレゼンテーション:取り組む課題とその計画案について発表<河嶋>				作業の進捗状況を担当教員に確認してもらうこと		
	11・12	エスキス:計画案設計作業(全体設定、詳細設計等具体的な内容確認)				予定作業内容が終了していない場合は、次回事業 が出来るところまで進めておくこと。		
	13・14	エスキス:計画案設計作業(全体設定、詳細設計等具体的な内容確認)				予定作業内容が終了していない場合は、次回事業 が出来るところまで進めておくこと。		
	15・16	エスキス:計画案設計作業(全体設定、詳細設計等具体的な内容確認)				予定作業内容が終了していない場合は、次回事業 が出来るところまで進めておくこと。		
	17・18	2次プレゼンテーション:計画内容の詳細発表<河嶋>				作業の進捗状況を担当教員に確認してもらうこと		
	19・20	エスキス:プレゼンテーション作業(最終図面、解説文、解説用図版)				予定作業内容が終了していない場合は、次回事業 が出来るところまで進めておくこと。		
	21・22	エスキス:プレゼンテーション作業(最終図面、解説文、解説用図版)				予定作業内容が終了していない場合は、次回事業 が出来るところまで進めておくこと。		
	23・24	エスキス:プレゼンテーション作業(最終図面、解説文、解説用図版)+提出				作業の進捗状況を担当教員に確認してもらうこと		
	25・26	最終成果手直し				予定作業内容が終了していない場合は、次回事業 が出来るところまで進めておくこと。		
	27・28	最終成果手直し+最終提出				作業の進捗状況を担当教員に確認してもらうこと		
29・30	最終プレゼン(1人5分程度)・講評<河嶋>							
評価方法	課題作品の提出、発表を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)A(80点以上)B(70点以上)C(60点以上)D(59点以下)とする。							
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	提出課題			○				80%
	発表			○				20%
履修上の注意	出席回数が授業回数の2／3に満たない場合は、提出状況は関係なく単位を与えない							

科目名	建築設計演習Ⅱ						
科目名(英)	Architectural design draftingⅡ						
単位数	4単位		時間数	60時間		担当者	深野木 隆
実施年度	2022年度		実施時期	後期		担当者実務経験	建築設計事務所にて建築設計(意匠)に従事
対象学科・学年	建築学科(夜間) 2年						
授業概要	住宅設計に特化した設計手法学ぶ。様々な条件に応じた課題に取り組み、住宅設計に関する設計課題ができる。						
授業形式	講義: △		演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
		○				住宅設計において必要な事項(居間・食堂)について説明できる	
		○				住宅設計において必要な事項(台所・プライベートゾーン)について説明できる	
		○				水路のある家を設計できる	
		○				事務所併用住宅が設計できる	
テキスト・教材 参考図書	オリジナルプリント						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1・2	木造架構と間取り(1)					
	3・4	木造架構と間取り(2)				住宅に関する資料を集める	
	5・6	「水路のある家の計画」の計画(1)				住宅に関する資料を集める	
	7・8	「水路のある家の計画」の計画(2)				課題の進捗状況に応じて、課題を進める	
	9・10	「水路のある家」のエスキス(1)				課題の進捗状況に応じて、課題を進める	
	11・12	「水路のある家」のエスキス(2)				進捗状況を指導教員に報告する	
	13・14	「水路のある家」のエスキス(3)				課題の進捗状況に応じて、課題を進める	
	15・16	課題提出・講評					
	17・18	「前面道路とレベル差のある住宅の建て替え計画」課題説明				課題の進捗状況に応じて、課題を進める	
	19・20	エスキスチェック				進捗状況を指導教員に報告する	
	21・22	課題提出・講評					
	23・24	「事務所併用住宅」の計画課題説明				課題の進捗状況に応じて、課題を進める	
	25・26	エスキスチェック(1)				進捗状況を指導教員に報告する	
	27・28	エスキスチェック(2)				課題の進捗状況に応じて、課題を進める	
29・30	課題提出・講評						
評価方法	(1)課題の提出内容 (2)課題の提出枚数(締切後は受け取りません)(3)プレゼンテーション ※成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題の提出枚数		○				60%
	作品の完成度		○				20%
	プレゼンテーション		○				20%
履修上の注意	①提出図面枚数が全体の枚数に対して7割に満たない場合 ②出席回数が授業回数の2／3に満たない場合 ①もしくは②にどちらかに該当する場合は単位を与えない						

科目名	建築設計製図演習Ⅱ						
科目名(英)	Architectural design drafting Ⅱ						
単位数	2単位	時間数	32時間	担当者	高野 繁幸		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	建築設計事務所にて 建築設計(意匠)に従事		
対象学科・学年	建築学科(夜間) 2年						
授業概要	店舗設計(カウンターカフェの設計、テーブル席のあるカフェの設計の2課題)を通して、店舗の動線計画、照明計画、家具の配置計画などについて総合的に学び、課題の製作及びプレゼンテーションを行う。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
		○		○		店舗設計に関する動線計画や照明計画を説明出来る。	
		○		○		カウンターカフェの設計を行いプレゼンテーション出来る。	
		○		○		テーブル席のあるカフェの設計を行いプレゼンテーション出来る。	
テキスト・教材 参考図書	オリジナルプリント						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	店舗設計について/動線計画、配置計画				授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。	
	2	/証明について、家具について					
	3	1 課題(カウンターカフェの設計)/課題の説明					
	4	/平面図(1)の作成					
	5	/平面図(2)の作成					
	6	/傍観図の作成					
	7	/展開図の作成					
	8	/プレゼンテーション					
	9	2 課題(テーブル席のあるカフェの設計)/課題の説明					
	10	/平面図(1)の作成					
	11	/平面図(2)の作成					
	12	/傍観図(1)の作成					
	13	/傍観図(2)の作成					
	14	/展開図(1)の作成					
	15	/展開図(2)の作成					
	16	/プレゼンテーション					
評価方法	課題の提出内容、プレゼンテーションにて評価する。 ※成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題作品		○	○			50%
	プレゼンテーション		○	○			50%
履修上の注意	出席回数が授業回数の2/3に満たない場合は、提出状況は関係なく単位を与えない						

科目名	建築計画Ⅳ						
科目名(英)	Architectural planning and designⅣ						
単位数	2単位		時間数	30時間	担当者	河嶋 正樹	
実施年度	2022年度		実施時期	後期	担当者実務経験	建築設計事務所にて 建築設計(意匠)に従事	
対象学科・学年	建築学科(夜間) 2年						
授業概要	自分なりに社会の変化とともに建築が担うべき役割を考察し、社会のニーズに応えられる公共施設の建築計画を発表する						
授業形式	講義: ○		演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					各時代の代表的な公共施設が当時の社会において担った役割を説明できる	
	○					現代の公共施設が抱える課題点を説明できる	
	○					これからの社会ニーズをふまえた公共施設の建築計画を提案することができる	
テキスト・教材 参考図書	建築計画(実教出版)、オリジナルプリント						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	ガイダンス4-1生活圏とコミュニティ施設					
	2	4-2図書館 図書館の変遷				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3	4-2図書館 公共図書館の役割				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	4-2図書館 地域図書館の計画、近代建築史				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	4-3美術館 美術館の計画・各室計画				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	6	4-3美術館 美術館の計画・各室計画の変遷				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	4-4コミュニティーセンター、公民館				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 復習する。	
	8	4-5確認テスト				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	9	5-1高齢社会と建築計画 5-2病院 病院の誕生				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	10	5-2病院 病院の計画				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11	5-2病院 各室の計画				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	12	5-3高齢者施設 居住施設・各室計画				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	5-3高齢者施設 居住施設・各室計画				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 復習しておく。	
	14	5-3確認テスト				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 復習しておく。	
	15	総括				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 期末試験に向けて復習をする	
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)A(80点以上)B(70点以上)C(60点以上)D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				60%
	小テスト	○	○				20%
	宿題・レポート	○	○				20%
履修上の注意	出席回数が授業回数の2／3に満たない場合は、単位を与えない						

科目名	建築環境工学 応用						
科目名(英)	Architectural Environmental Engineering Application						
単位数	2単位		時間数	30時間	担当者	竹田 真志	
実施年度	2022年度		実施時期	後期	担当者実務経験	建築設計事務所にて 建築設計(意匠)に従事	
対象学科・学年	建築学科(夜間) 2年						
授業概要	望ましい室内環境を形成するための物理的・生理的・心理的な知見を整理・統合し、建築計画に役立て、二級建築士試験における学科Ⅰ(計画)の問題に対応出来るようになる						
授業形式	講義: ○		演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					建築環境工学(熱・湿気・温熱・都市・地球・音)における関連用語の要素・基準値を説明できる	
	○	○				建築環境工学に関連する数値を各々の算式により算出することができる	
	○					熱・湿気・温熱・都市・地球・音が与える影響を説明できる	
	○	○				建築環境工学における代表的な図(グラフ)を読み取ることができる	
	○	○				建築環境の観点から問題点・課題点を見出せる	
テキスト・教材 参考図書	建築環境工学(市ヶ谷出版)、オリジナルプリント						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	熱の流れ・熱貫流				学習部分の復習と、次回授業の該当部分について テキストで予習しておくこと	
	2	熱貫流の計算(1)熱伝導率・伝達率				学習部分の復習と、次回授業の該当部分について テキストで予習しておくこと	
	3	熱貫流の計算(2)空気層・熱貫流抵抗				学習部分の復習と、次回授業の該当部分について テキストで予習しておくこと	
	4	熱貫流の計算(3)日射熱取得・遮蔽係数				学習部分の復習と、次回授業の該当部分について テキストで予習しておくこと	
	5	建物全体の熱特性(総合熱貫流)				学習部分の復習と、次回授業の該当部分について テキストで予習しておくこと	
	6	省エネルギー基準				学習部分の復習と、次回授業の該当部分について テキストで予習しておくこと	
	7	湿り空気と露点温度				学習部分の復習と、次回授業の該当部分について テキストで予習しておくこと	
	8	湿り空気曲線図の読み方				学習部分の復習と、次回授業の該当部分について テキストで予習しておくこと	
	9	内部結露・外部結露および防止法				学習部分の復習と、次回授業の該当部分について テキストで予習しておくこと	
	10	温熱環境6要素				学習部分の復習と、次回授業の該当部分について テキストで予習しておくこと	
	11	温熱感覚指標				学習部分の復習と、次回授業の該当部分について テキストで予習しておくこと	
	12	外界の気温・湿度・風				学習部分の復習と、次回授業の該当部分について テキストで予習しておくこと	
	13	都市環境				学習部分の復習と、次回授業の該当部分について テキストで予習しておくこと	
	14	音の性質・音の単位・レベル・聴感				学習部分の復習と、次回授業の該当部分について テキストで予習しておくこと	
	15	騒音評価法・基準・遮音				学習部分の復習と、次回授業の該当部分について テキストで予習しておくこと	
評価方法	定期試験結果と授業内での理解度確認テストの結果による (1)定期試験(筆記)を実施する。※60点以上取得すること (2)授業の中で小テストを3回実施する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				80%
	小テスト	○	○				20%
履修上の注意	出席回数が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を与えない。						

科目名	福祉住環境						
科目名(英)	Living Environment for All						
単位数	2単位		時間数	32時間		担当者	田川 裕也
実施年度	2022年度		実施時期	後期		担当者実務経験	建築施工現場事務所にて 施工図作成業務に従事
対象学科・学年	建築学科(夜間) 2年						
授業概要	少子高齢社会を迎え、現状の問題と課題を考え、福祉住環境整備の重要性・必要性を学ぶ。また、高齢者の健康と自立、障害者が生活の不自由さを克服する手段を考える。						
授業形式	講義: ○		演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
		○				高齢者・障害者にとって、暮らしやすい住環境について説明できる	
		○				高齢者の健康と自立・障害者が生活の不自由を克服する方法を説明できる	
		○				バリアフリーとユニバーサルデザインについて説明できる	
		○				福祉住環境コーディネーター検定3級問題に解答できる	
テキスト・教材 参考図書	オリジナルプリント						
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示
	1・2	少子高齢者と共生社会への道 福祉住環境整備の重要性と必要性					配布された資料を整理する
	3・4	在宅生活の維持とケアサービス 高齢者の健康と自立					書籍を読んで短時間でまとめる
	5・6	障害者が生活の不自由を克服する道 バリアフリーとユニバーサルデザインを考える					書籍を読んで短時間でまとめる
	7・8	生活を支えるさまざまな用具 住まいの整備のための基本技術					書籍を読んで短時間でまとめる
	9・10	生活行為別にみる安全・安心・快適な住まい(1) 生活行為別にみる安全・安心・快適な住まい(2)					配布された資料を整理する
	11・12	ライフスタイルの多様化と住まい 安心できる住生活					書籍を読んで短時間でまとめる
	13・14	安心して暮らせるまちづくり(1) 安心して暮らせるまちづくり(2)					書籍を読んで短時間でまとめる
	15・16	地域で取り組む福祉のまちづくり実践事例					プレゼン
評価方法	期末試験・レポート課題、小テストの結果によって評価する 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	期末試験・レポート		○				80%
	小テスト		○				20%
履修上の注意	出席回数が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を与えない。						

科目名	住居学						
科目名(英)	Residential Studies						
単位数	2単位		時間数	32時間		担当者	堀江 恵子
実施年度	2022年度		実施時期	後期		担当者実務経験	設計事務所にて インテリアコーディネーターとして従事
対象学科・学年	建築学科(夜間) 2年						
授業概要	インテリアの計画を通し、快適な住環境を理解する。また、より実践に即した学習の機会とする為、各人が立てた計画を発表し、学生間での相互評価の時間を設ける。						
授業形式	講義: △		演習: ○		実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
		○				インテリア計画の基礎となる共通用語「インテリアティスト」の説明ができる	
		○				基本的「後追いプランニング」を実践できる	
		○				トレンドを取り入れた内装計画を立てることができる	
		○				照明効果に基づいた照明計画を立てることができる	
		○	○			課題作品のプレゼンテーションを形にすることができる	
テキスト・教材 参考図書	超図解で全部わかるインテリアデザイン入門 最新版(エクснаレッジ)、オリジナルプリント						
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示
	1・2	住宅における「インテリア」の守備範囲。 「インテリアティストイメージ」について整理する。					配布された資料を整理する
	3・4	「後追いプランニング」について実践。 イメージパースまたは展開図の作成(手描き)					書籍を読んで短時間でまとめる
	5・6	・中間簡易プレゼンテーション ・デザインを形にする(1)課題: マンション設計変更 ／カラーコーディネート、インテリアトレンド					書籍を読んで短時間でまとめる
	7・8	・デザインを形にする(2)課題: マンション設計変更 ／照明計画、デザインワーク(平面計画)					書籍を読んで短時間でまとめる
	9・10	・デザインを形にする(3)課題: マンション設計変更 ／デザインワーク(平面計画)、参考資料の検討					配布された資料を整理する
	11・12	仕様の決定／内装計画・平面計画・プレゼンデータ作成					書籍を読んで短時間でまとめる
	13・14	プランまとめとプレゼンデータ作成					書籍を読んで短時間でまとめる
	15・16	プラボード(シート)完成、プレゼンテーション、ディスカッション					プレゼンの準備
評価方法	各インテリア計画(カラーコーディネート、照明計画、デザインワーク／平面、内装計画)を設定期限内に完成させているか、またプレゼンテーション(プレゼン資料の完成度)により評価する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	計画遂行状況		○				20%
	作品(プレゼンデータ)完成度		○	○			40%
	プレゼンテーション		○	○			40%
履修上の注意	出席回数が授業回数の2／3に満たない場合は、提出状況は関係なく単位を与えない						

科目名	建築材料実験							
科目名(英)	Laboratory test of building materials							
単位数	2単位		時間数	32時間		担当者	黒木 文雄	
実施年度	2022年度		実施時期	後期		担当者実務経験	建築建築設計事務所にて構造設計を担当、専門学校にて常勤講師として勤務	
対象学科・学年	建築学科(夜間) 2年							
授業概要	建築構造材料の主要材料であるコンクリートと鋼材の性質を実験的に確認する。 構造力学で学んだ知識をもとに、部材の変形や応力度とひずみ度の関係を実験的に確認する。							
授業形式	講義: △		演習:	実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標		
	○					コンクリートの製作手順を理解し、コンクリートを作れる。		
	○					コンクリートの構成材料である骨材の性質を説明できる。		
	○					コンクリートの圧縮強度試験を行い、コンクリートの圧縮強度を求めることが出来る。		
	○					鉄筋の引っ張り強度試験を行い、鉄筋の引っ張り強度を求めることが出来る。		
テキスト・教材 参考図書	オリジナルプリント							
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示	
	1	建築材料実験の概要と目的						
	2	コンクリートの打設準備(鉄筋加工)					鉄筋の加工手順を確認する	
	3	コンクリートの打設(1)					コンクリートの機械的性質について予習する	
	4	コンクリートの打設(2)					コンクリートの機械的性質について予習する	
	5	セメントの強度試験用供試体作成概要説明					セメントの性質について予習する	
	6	セメントの強度試験用供試体作成、コンクリートの強度試験(7日)					コンクリートの強度算定について確認する	
	7	骨材のふるい分け試験の概要説明					骨材の性質について確認する	
	8	骨材のふるい分け試験、コンクリートの強度試験(14日)					骨材の性質について確認する	
	9	鉄筋の引張試験の概要説明					鉄筋の機械的性質について予習する	
	10	鉄筋の引張試験、コンクリートの強度試験(21日)					コンクリートの強度算定について確認する	
	11	コンクリートの強度試験(24日)の概要説明、強度試験用試験体作成					コンクリートの強度算定について確認する	
	12	コンクリートの強度試験(24日)					コンクリートの強度算定について確認する	
	13	鉄筋コンクリート短柱の破壊試験の概要説明、鉄筋コンクリート短柱の破壊試験					コンクリートの機械的性質について予習する	
	14	セメントの強度試験					セメントの性質について予習する	
	15	鉄筋コンクリート梁の破壊試験					梁の曲げ試験について予習する	
	16	アルミ棒を用いたたわみ実験					梁のたわみ計算の公式を確認する	
評価方法	実習態度(制作手順の理解度・協調性・安全管理が出来ているか)、レポート、出席率により総合的に判断・評定する。							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
	実習態度		○				40%	
	レポート		○				60%	
履修上の注意	出席回数が授業回数の2／3に満たない場合は、単位を与えない							

科目名	ランドスケープデザイン						
科目名(英)	Landscape design						
単位数	2単位		時間数	32時間		担当者	石原 達也
実施年度	2022年度		実施時期	後期		担当者実務経験	デザイン事務所にて 建築パース作成に従事
対象学科・学年	建築学科(夜間) 2年						
授業概要	建築のひとつの要素として、スロープ、縁石、フェンス、パーゴラなどの効果について学ぶ。 また、遊戯施設、水景施設、スポーツ施設等における設置上の留意点について学ぶ。						
授業形式	講義: ○		演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				一般外構の役割について説明出来る。	
	○	○				遊戯施設、水景施設、スポーツ施設の設置上の留意点を説明出来る。	
		○				各種ストリートファニチャーの提案が出来る。	
テキスト・教材 参考図書	オリジナルプリント						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1・2	一般外構のディテール(1)				授業内容の復習を行うこと レポート提出 準備	
	3・4	一般外構のディテール(2)				授業内容の復習を行うこと レポート提出 準備	
	5・6	遊戯施設				授業の理解度を確認し適切に質問等をす ることレポート提出準備	
	7・8	水景施設				授業内容の復習を行うこと レポート提出 準備	
	9・10	スポーツ施設				授業内容の復習を行うこと レポート提出 準備	
	11・12	備品・サイン施設(1)				授業の理解度を確認し適切に質問等をす ることレポート提出準備	
	13・14	備品・サイン施設(2)				授業内容の復習を行うこと レポート提出 準備	
	15・16	植栽				授業内容の復習を行うこと レポート提出 準備	
評価方法	講義ごとにレポートの提出を義務付けています。その度毎に各人の内容を精査し、それぞれの講義内容の 理解度を確認します。講義中の質問はいつでも受け付け直接指導を行い、講義内容に対しての理解度を深めると共 に、16回目の最終的講義後に全てのレポートを点検し、最終評価を行います。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	宿題・レポート	○	○				100%
履修上の注意	出席回数が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を与えない。						

科目名	国家試験対策Ⅰ							
科目名(英)								
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	竹下 幸栄	
実施年度	2022年度		実施時期	後期		担当者実務経験	建築設計事務所にて 建築設計(意匠)に従事	
対象学科・学年	建築学科(夜間) 2年							
授業概要	2級建築士試験対策の問題集の問題演習・解説を通し、建築計画・建築環境工学に関する、より専門的な知識の修得を図る。							
授業形式	講義: ○		演習: △		実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標		
	○	○				建築環境工学(気候、空気、熱、光、音、色彩)に関する特徴、課題点を説明出来る		
	○	○				建築設備(空調設備、給水設備、排水・衛生設備、電気・照明設備、消防・防火設備)に関する特徴、課題点を説明出来る		
	○	○				建築計画(住宅、商業・文化施設、教育、医療・福祉施設)に関する特徴、課題点を説明出来る		
	○	○				日本・西洋・近代建築それぞれの代表建築とその特徴・課題点を説明出来る		
テキスト・教材 参考図書	2級建築士試験(学科) 厳選問題集500+100(総合資格)							
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示	
	1	気候、空気					その日の復習	
	2	熱、光					その日の復習と次回講義範囲の予習	
	3	音、色彩					その日の復習と次回講義範囲の予習	
	4	空気調和設備					その日の復習と次回講義範囲の予習	
	5	給水設備					その日の復習と次回講義範囲の予習	
	6	排水・衛生設備					その日の復習と次回講義範囲の予習	
	7	電気・照明設備					その日の復習と次回講義範囲の予習	
	8	消防・防火設備					その日の復習と次回講義範囲の予習	
	9	省エネルギー、住宅建築					その日の復習と次回講義範囲の予習	
	10	商業施設、文化施設					その日の復習と次回講義範囲の予習	
	11	教育施設、医療・福祉施設					その日の復習と次回講義範囲の予習	
	12	各部計画					その日の復習と次回講義範囲の予習	
	13	建築生産、都市計画					その日の復習と次回講義範囲の予習	
	14	建築史概論					その日の復習と次回講義範囲の予習	
	15	まとめ						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。※60点以上取得すること (2)授業の中で小テストを3回実施する。 (3)宿題・レポートを数回実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
	定期試験	○	○				70%	
	小テスト	○	○				20%	
	宿題・レポート	○	○				10%	
履修上の注意	出席回数が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を与えない。							

科目名	国家試験対策Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	竹下 幸栄
実施年度	2022年度		実施時期	後期		担当者実務経験	建築設計事務所にて 建築設計(意匠)に従事
対象学科・学年	建築学科(夜間) 2年						
授業概要	2級建築士試験対策の問題集の問題演習・解説を通し、建築法規に関するより専門的な知識の修得を図る。						
授業形式	講義: ○		演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				二級建築士試験に出題される建築法規に関する問題が解ける	
	○	○				問題演習により、建築法規における重要とされる事項、留意すべき点など説明 することができる	
	○	○				問題演習により得た建築法規の知識(遵守すべき法律基準・規範等)を、実務の 具定例と結び付けて説明することができる	
テキスト・教材 参考図書	2級建築士試験(学科) 厳選問題集500+100(総合資格)、オリジナルプリント						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	問題演習、解説【用語の定義】				今回の復習	
	2	問題演習、解説【確認申請・建築手続】				今回の復習と次回講義範囲の予習	
	3	問題演習、解説【面積・高さの算定】				今回の復習と次回講義範囲の予習	
	4	問題演習、解説【一般構造】				今回の復習と次回講義範囲の予習	
	5	問題演習、解説【耐火・防火】				今回の復習と次回講義範囲の予習	
	6	問題演習、解説【防火地域・準防火地域】				今回の復習と次回講義範囲の予習	
	7	問題演習、解説【防火区画】				今回の復習と次回講義範囲の予習	
	8	問題演習、解説【避難施設】				今回の復習と次回講義範囲の予習	
	9	問題演習、解説【内装制限】				今回の復習と次回講義範囲の予習	
	10	問題演習、解説【構造計算・構造強度】				今回の復習と次回講義範囲の予習	
	11	問題演習、解説【敷地等と道路/用途地域】				今回の復習と次回講義範囲の予習	
	12	問題演習、解説【建ぺい率】				今回の復習と次回講義範囲の予習	
	13	問題演習、解説【容積率】				今回の復習と次回講義範囲の予習	
	14	問題演習、解説【高さ制限】				今回の復習と次回講義範囲の予習	
	15	まとめ				今回の復習	
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。※60点以上取得すること (2)授業の中で小テストを3回実施する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				70%
	小テスト	○	○				30%
履修上の注意	出席回数が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を与えない。						

科目名	国家試験対策Ⅲ						
科目名(英)	National exam Ⅲ						
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	黒木 文雄
実施年度	2022年度		実施時期	後期		担当者実務経験	建築建築設計事務所にて構造設計を担当、 専門学校にて常勤講師として勤務
対象学科・学年	建築学科(夜間) 2年						
授業概要	2級建築士試験対策問題集の問題演習・解説を通して、より専門的な構造力学の知識の修得を図る						
授業形式	講義: △		演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目 標	
	○	○				二級建築士試験に出題される構造力学に関する問題が解ける	
	○	○				問題演習により、構造力学における重要事項、留意すべき点など説明することができる	
	○	○				問題演習により得た構造力学の知識を、実務の具定例と結び付けて説明することができる	
テキスト・教材 参考図書	2級建築士試験(学科) 厳選問題集500+100(総合資格)、オリジナルプリント						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	問題演習、解説【力の釣り合い】				その日の復習	
	2	問題演習、解説【応力】				その日の復習と次回講義範囲の予習	
	3	問題演習、解説【トラス】				その日の復習と次回講義範囲の予習	
	4	問題演習、解説【断面の性質】				その日の復習と次回講義範囲の予習	
	5	問題演習、解説【応力度】				その日の復習と次回講義範囲の予習	
	6	問題演習、解説【座屈、地盤】				その日の復習と次回講義範囲の予習	
	7	問題演習、解説【荷重・外力】				その日の復習と次回講義範囲の予習	
	8	問題演習、解説【木材料、木構造(1)】				その日の復習と次回講義範囲の予習	
	9	問題演習、解説【木構造(2)】				その日の復習と次回講義範囲の予習	
	10	問題演習、解説【コンクリート材料】				その日の復習と次回講義範囲の予習	
	11	問題演習、解説【鉄筋コンクリート構造(1)】				その日の復習と次回講義範囲の予習	
	12	問題演習、解説【鉄筋コンクリート構造(2)】				その日の復習と次回講義範囲の予習	
	13	問題演習、解説【鋼材料・鋼構造】				その日の復習と次回講義範囲の予習	
	14	問題演習、解説【構造計画】				その日の復習と次回講義範囲の予習	
	15	まとめ					
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。※60点以上取得すること (2)授業の中で小テストを3回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験		◎				80%
	小テスト		○				20%
履修上の注意	出席回数が授業回数の2／3に満たない場合は、単位を与えない						

科目名	国家試験対策Ⅳ						
科目名(英)							
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	高野 繁幸
実施年度	2022年度		実施時期	後期		担当者実務経験	建築設計事務所にて 建築設計(意匠)に従事
対象学科・学年	建築学科(夜間) 2年						
授業概要	二級建築士試験の過去問題の問題演習・解答解説を通して、建築施工に関するより専門的な知識の修得を図る						
授業形式	講義: ○		演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目 標	
	○	○				二級建築士試験に出題される建築施工に関する問題が解ける	
	○	○				問題演習により、建築施工における重要とされる事項、留意すべき点など説明することができる	
	○	○				問題演習により得た知識を、施工実務の具定例と結び付けて説明することができる	
テキスト・教材 参考図書	2級建築士試験(学科) 厳選問題集500+100(総合資格)、オリジナルプリント						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	問題演習、解説【契約/施工計画】					
	2	問題演習、解説【管理計画】				授業内容の理解度に応じて復習を行うこと	
	3	問題演習、解説【仮設計画】				授業内容の理解度に応じて復習を行うこと	
	4	問題演習、解説【地盤/土工事/基礎】				授業終了範囲の内容で、理解状況の確認を行うこと	
	5	問題演習、解説【鉄筋工事】				授業内容の理解度に応じて復習を行うこと	
	6	問題演習、解説【型枠工事】				授業内容の理解度に応じて復習を行うこと	
	7	問題演習、解説【コンクリート工事】				授業終了範囲の内容で、理解状況の確認を行うこと	
	8	問題演習、解説【鉄骨工事】				授業内容の理解度に応じて復習を行うこと	
	9	問題演習、解説【木工事】				授業内容の理解度に応じて復習を行うこと	
	10	問題演習、解説【防水工事/左官工事】				授業終了範囲の内容で、理解状況の確認を行うこと	
	11	問題演習、解説【タイル工事/石工事】				授業内容の理解度に応じて復習を行うこと	
	12	問題演習、解説【塗装工事/建具・ガラス工事】				授業内容の理解度に応じて復習を行うこと	
	13	問題演習、解説【内装工事/改修工事】				授業終了範囲の内容で、理解状況の確認を行うこと	
	14	問題演習、解説【設備工事】				授業内容の理解度に応じて復習を行うこと	
	15	問題演習、解説【各部工事総合】				授業内容の理解度に応じて復習を行うこと	
評価方法	期末試験、レポート課題、小テストの結果によって評価する 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験・レポート	○	○				80%
	小テスト	○	○				20%
履修上の注意	出席回数が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を与えない。						

科目名	国家試験対策製図						
科目名(英)	National exam Drawing I						
単位数	4単位		時間数	60時間		担当者	黒木 文雄
実施年度	2022年度		実施時期	後期		担当者実務経験	建築建築設計事務所にて構造設計を担当、専門学校にて常勤講師として勤務
対象学科・学年	建築学科(夜間) 2年						
授業概要	二級建築士試験の製図試験に関する対策授業。木造、鉄筋コンクリート構造の製図の書き方を学ぶ。						
授業形式	講義:		演習:	○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
		○	○			木造建物の正確な作図(平面図、矩計図、立面図、床伏図、小屋伏図、断面図)ができる	
		○	○			鉄筋コンクリート建物の正確な作図(平面図、矩計図、立面図、床伏図、小屋伏図、断面図)ができる	
テキスト・教材 参考図書	2級建築士試験設計製図テキスト(総合資格)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1・2	設計製図試験の概要、平面図の描きかた					
	3・4	第1課題(木造 1, 2階平面図)				木造平面図の描き方の確認	
	5・6	第1課題(1, 2階平面図)				課題が遅れている場合には課題を進める	
	7・8	矩計図の描きかた				課題が遅れている場合には課題を進める	
	9・10	第1課題(矩計図)				課題の進捗状況を担当教員に報告する	
	11・12	立面図の描きかた、第1課題(立面図)				課題が遅れている場合には課題を進める	
	13・14	床伏図、小屋伏図の描きかた、第1課題(床伏図、小屋伏図)				課題が遅れている場合には課題を進める	
	15・16	第1課題(床伏図、小屋伏図)				課題の進捗状況を担当教員に報告する	
	17・18	断面図の描きかた、第1課題(断面図)				課題が遅れている場合には課題を進める	
	19・20	第2課題(木造) 配置図兼1階平面図、2階平面図の作図				課題が遅れている場合には課題を進める	
	21・22	第2課題(木造) 矩計図の作図				課題の進捗状況を担当教員に報告する	
	23・24	第2課題(木造) 立面図、床伏図・小屋伏図の作図				課題が遅れている場合には課題を進める	
	25・26	第3課題(RC造 RC図面の描きかた全般説明)				課題が遅れている場合には課題を進める	
	27・28	第3課題(RC造) 配置図兼1階平面図、2階平面図、立面図の作図				課題の進捗状況を担当教員に報告する	
	29・30	第4課題作図(木造) 配置図兼1階平面図、2階平面図の作図				課題が遅れている場合には課題を進める	
評価方法	(1)課題提出枚数(2)課題作品の完成度に関して以下の通りの基準で評価する S評価:すべての課題を提出 A評価:提出枚数が9割以上 B評価:8割以上 C評価:7割以上 D評価:7割未満						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題の提出枚数		○				70%
	作品の完成度		○	○			30%
履修上の注意	①提出図面枚数が全体の枚数に対して7割に満たない場合 ②出席回数が授業回数の2/3に満たない場合 ①もしくは②にどちらかに該当する場合は単位を与えない ※提出枚数の評価に加え、図面の仕上がり具合により評価は上下します。						